

偶発債務(係争中の訴訟等)集計表(平成23年度)

(所管等):

裁判所所管

(単位:百万円)

名称等(訴訟名等)	金額	事件番号	概要(簡単な説明、今後の予定等)
民事事件に起因するもの			
1 国家賠償請求事件	0	最高裁23才	原告の司法行政文書の情報開示請求に対し、当該文書が開示の対象であるにも関わらず不開示の決定をしたのは不当であるなどとして、損害賠償を求める事案である。審理中
2 国家賠償請求事件	49	都府地裁237	工作物及び立木の収去土地明渡しの判決に基づいて収去の代替執行がされたが、同土地は国賠原告が上記判決の被告から賃借して使用していたものであるから、この代替執行は国賠原告を当事者とする判決に基づく違法な執行であると主張して、工作物の復元、伐採された樹木の損害等を求める事案である。審理中
3 国家賠償請求事件	75	京都地裁227	担保不動産競売事件において、原告が競売した土地の現況調査報告書及び評価書には、産業廃棄物の投棄がある旨の記載がなかったため、意図していた土地利用ができずとえていたが、競売した土地の一部に産業廃棄物の投棄が見つかり、意図していた土地利用が不可能となったため、損害を被った。本件土地を売地において詳しく調査確認すれば、産業廃棄物の投棄は容易に発見しえたはずであり、この点を看過して作成された現況調査報告書及び評価書には重大な過失がある。また、これらの書面の提出を受けた裁判官は、本件土地が山林であることから、現地での詳しい調査確認を執行官及び評価人に促すなど、その正確性について確認を行うべき注意義務があったのに、それを怠った過失があるなどと主張して損害賠償を請求する事案である。審理中
4 国家賠償請求事件	0	大阪地裁237	原告が当事者となっている別件簡裁訴訟において、裁判官が判決起草を煩悶と想ったことから、期日に出廷した相手方に通達を指示して、同訴訟を取下げ強制(民訴263条)として終了させたのは、原告の裁判を受ける権利を侵害するものとして慰謝料を請求する事案である。審理中
5 国家賠償請求事件	22	大阪地裁237	原告が競売手続で取得した本件土地及び建物について、本件建物の敷地には、本件土地以外の敷地(本件目的外土地)が存在し、執行官はこれを認識していたのに調査義務を怠り、現況調査報告書に「本件建物は、本件土地以外の敷地なし」と記載した。裁判官は執行官に対し、本件目的外土地の存在に注意するよう喚起し、詳細な調査を実施するよう指示するべき義務があるのにこれを怠ったと主張して損害賠償を請求する事案である。審理中
6 国家賠償請求事件	13	東京地裁237	原告が競売手続によって不動産を取得したところ、本件土地は、公道に接しておらず、無道路地として評価し、再建築不可である旨評価書に明示すべきところ、評価人の誤った評価により、再建築可能と記載されていた。執行官は、評価人の評価に誤りがあることを容易に発見できたにもかかわらず、何らの検討をせず、または看過したまま競売手続を進めたとして、損害賠償を請求する事案である。審理中
7 国家賠償請求事件	0	仙台地裁207	原告が提起した別件訴訟において、担当書記官が不当に郵便切手を使用し損害を与えた。裁判官が不当に訴訟救助の申立てを却下したため損害を受けたなどと主張して損害賠償を求める事案である。審理中
8 国家賠償請求事件	0	仙台地裁217	原告が当事者である別件訴訟において、被告側から和解の申入れがあり解決の目処が立っていたのに、裁判官の不当な訴訟指揮により、和解による経済的利益を得ることができなくなった。原告が簡易裁判所に申立てた事件を、再三の申入れにも関わらず地方裁判所に移送し、無駄で簡易迅速に簡易裁判所で裁判を受ける権利を侵害された等と主張して慰謝料を求める事案である。審理中
9 国家賠償請求事件	0	最高裁23才/23受	原告が申立人の調停事件において、調停委員が、原告に対して相手方に一方的に有利な条件を無理矢理に承認させようとする旨を吐き付けることにより、精神的被害を受けたとして、損害賠償を請求する事案である。審理中
10 国家賠償請求事件	0	松山地裁231	原告が提起した別件訴訟において、地裁の裁判官が、最高裁の唱える民事裁判の使命、即ち「双方の言い分を確かめ、証拠を調べた上で」から逸脱し、結果として誤審判決をなしたことにより精神的な苦痛を受けたなどと主張して慰謝料を求める事案である。審理中
11 国家賠償請求事件	0	松山地裁231	原告が提起した別件訴訟において、高裁の裁判官が、最高裁の唱える民事裁判の使命、即ち「双方の言い分を確かめ、証拠を調べた上で」から逸脱し、結果として誤審判決をなしたことにより精神的な苦痛を受けたなどと主張して慰謝料を求める事案である。審理中
12 国家賠償請求事件	0	最高裁23才/23受	原告が提起した別件訴訟において、原告は、専門部での審理を期待していたところ、担当部が通常部となったことから、司法行政文書開示の申立てを行ったところ、総務課が、迅速に定めのある30日以内に決定を行わず、約40日後に非開示の決定を行ったことは、原告の知る権利と裁判を受ける権利を侵害し、裁判所の情報公開に期待した原告の精神的苦痛は耐え難いとして、慰謝料を求める事案である。審理中
13 国家賠償請求事件	4	最高裁24才/24受	原告に対してなされた人身保護請求の判決には違法があり、手続は魔女裁判と見間違うものであった等と主張して、慰謝料を請求する事案である。審理中
14 国家賠償請求事件	0	広島高裁23才	原告が提起した別件訴訟において、原告が書記官に対し弁論調査に記載するよう要請したにもかかわらず、書記官はこれを記載しなかった等と主張して損害賠償を求める事案である。控訴取下強制確定
15 国家賠償請求事件	0	金沢地裁227	原告は、別件訴訟と同じ内容の訴訟を改めて提起したところ、裁判所が再び同じ裁判官に事件を配ったことは、不法行為にあたるとして損害賠償を求める事案である。審理中
16 国家賠償請求事件	23	東京地裁227	原告らが提起した別件訴訟において、原告らの勝訴的和解が成立したところ、債務者が金銭の支払を怠ったので、原告らは、和解における債権を実現しようとしたが、法務局において申請は却下された。このように実現しない和解を成立させたことは、裁判官の原告らに対する詐欺行為である事として、損害賠償等を請求する事案である。審理中
17 国家賠償請求事件	5	最高裁24才/24受	原告を拘束者とする別件人身保護命令事件の手続は違法である等と主張して、慰謝料を求める事案である。上告棄却確定

名称等(訴訟名等)	金額	事件番号	概要(簡単な説明、今後の予定等)
18 国家賠償請求事件	0	名古屋高裁237	原告が、関心のある事件を傍聴したところ、裁判官の言達の声が聞こえず、当該判決の結果を知ることができなかった、原告は裁判所に対して質問状を送付したが、何らの回答をしなかった等と主張して慰謝料を求める事案である。審理中
19 国家賠償請求事件	0	最高裁24才	原告が提起した別件訴訟において、原告が「他に主張・立証がある。」と発言したにもかかわらず、裁判を終結したことは、裁判を受ける権利を侵害するものである等と主張して慰謝料を請求する事案である。上告棄却確定
20 国家賠償請求事件	1	東京地裁227	原告が提起した別件訴訟において、被告「〇〇」あての訴状の送達が成功しなかったところ、裁判官は、被告「〇〇」の住所又は居所を明らかにせよとする補正命令を発令し、補正命令の期間経過後、被告「〇〇」についての訴状却下命令を発すると共に、補正命令の更正決定をして、同時に原告に送達した。当該訴訟に被告「〇〇」なる者はいないのであるから、このような手続により訴状却下することは、原告の裁判を受ける権利を奪うものである等と主張して、慰謝料を請求する事案である。請求棄却確定
21 国家賠償請求事件	59	最高裁24受	原告Aが提起した別件訴訟において裁判官らは職権濫用による悪行の捏造・虚偽の事実認定をもとに判決をした結果、原告Aは土地の所有権を、原告Bは株式の所有権をそれぞれ侵害された等と主張して、損害賠償を求める事案である。上告不受理確定
22 国家賠償請求事件	0	最高裁23才/23受	原告が提起した別件訴訟において、原告は簡裁に提起したのに、裁判所の都合で地裁に移送したのであるから、当事者に対する移送の通知費用は裁判所が負担すべきである。原告が予納した部分について、それを返還する際には使用明細を提示して返還すべきである等と主張して損害賠償を求める事案である。上告棄却及び上告不受理確定
23 国家賠償請求事件	4	最高裁24才	原告が当事者となっている複数の別件訴訟において、裁判官が違法な補正命令、即時抗告却下決定、訴状却下命令をした、裁判官が相手方の詐欺及び出資法違反を容認する内容の判決を出した、書記官が虚偽の確定証明書を作成した等と主張して、慰謝料等を請求する事案である。審理中
24 国家賠償請求事件	0	最高裁24才	原告が当事者となった別件訴訟において、裁判官が相手方の虚偽の陳述を容認し、原告の名誉を毀損した等と主張して慰謝料を求める事案である。上告棄却確定
25 国家賠償請求事件	0	最高裁24才/24受	書記官が、法廷において原告に対し、公然と侮辱したとして慰謝料を請求する事案である。上告棄却及び上告不受理確定
26 国家賠償請求事件	3	最高裁24才	原告が提起した国賠訴訟の上告審において、最高裁が判決によらず決定によって終局したことは、原告の裁判を受ける権利を侵害したと主張して慰謝料を請求する事案である。上告棄却確定
27 国家賠償請求事件	0	最高裁24才	原告が提起した別件訴訟において、裁判官が、不当な目的を持って判決をし、原告の財産権等を侵害したとして損害賠償を請求する事案である。上告棄却確定
28 国家賠償請求事件	0	最高裁24才	原告が提起した別件訴訟において、裁判官が、不当な目的を持って判決をし、原告の財産権等を侵害したとして損害賠償を請求する事案である。上告棄却確定
29 国家賠償請求事件	2	大阪高裁24才/24才受	原告所有の土地建物について、借入金庫を根拠当権者とする根拠当権設定契約をすることを原告が承諾して署名押印したにもかかわらず、相被告らが共謀の上、契約書を改ざんし、別の者を根拠当権者とする根拠当権設定契約を締結し、設定登記を経由する不法行為を行い、国もそれを知りながら、また知り得たにもかかわらず、原告所有の土地建物について競売手続を実施した等と主張して、損害賠償を求める事案である。審理中
30 国家賠償請求事件	336	東京地裁227	原告が提起した別件訴訟について、主目的には、裁判所の判断に誤りがあるとして、損害賠償を請求する事案である。審理中
31 国家賠償請求事件	1	最高裁24才	原告が提起した別件訴訟において、裁判官が法外な訴え提起手数料を要求する虚偽の補正命令を行い、それに対する即時抗告を不適法却下したこと及び虚偽の訴状却下命令をしたことは違法である等と主張して、慰謝料等を請求する事案である。上告棄却確定
32 国家賠償請求事件	0	最高裁24受	別件訴訟において、裁判官らが、不合理に、卑劣に、不正直に、職権等を濫用し、名誉毀損、人権侵害を行った等と主張し、慰謝料等を求める事案である。不受理決定確定
33 国家賠償請求事件	0	福岡地裁237	原告が競売手続により取得した土地は、二重に登記がされており、本来土地は存在していなかったにもかかわらず、そのことを看過して入札の公告を行った執行官には過失がある等と主張して、損害賠償を請求する事案である。審理中
34 国家賠償請求事件	0	最高裁24才	原告が提起した別件訴訟において、強制執行が成立するはずであるのに、裁判官は原告敗訴の違法な公文書偽造の判決を行った等と主張して、損害賠償を請求する事案である。上告棄却確定
35 国家賠償請求事件	22	大阪地裁237	原告が申し立てた動産執行事件において、債務者の妻が強制執行を免れるために債務者宅から債務者の動産を持ち出し逃走しようとしたところ、執行官はこれを阻止せず遷延と見送り、その結果執行不能となった。執行官は抵抗の排除等のために適切な措置を講じる義務があるのにこれを怠った等と主張して、損害賠償等を請求する事案である。審理中
36 国家賠償請求事件	0	最高裁24才/24受	原告が提起した別件少額訴訟において、審理を一回したのみで、その後に法廷を開かないことは、手続に対する不作為の違法があると主張して、損害賠償を請求する事案である。上告棄却及び上告不受理確定

名称等(訴訟名等)	金額	事件番号	概要(簡単な説明、今後の予定等)
37 国家賠償請求事件	120	最高裁24才/24受	原告がかつて居住していた建物の不動産引渡命令に基づく強制執行の際に、執行官にこの強制執行は正しいか聞いたところ、間違いであると答えたので、中止するよう申し入れたが聞き入れなかった等と主張して、損害賠償を請求する事案である。審理中
38 国家賠償請求事件	0	さいたま地裁237	原告が提起した別件訴訟において、簡裁の裁判官が証明活動を妨げたり、申立事項を判断しない等、迅速な裁判を妨害する不法行為を行い、裁判官忌避・移送・書記官処分に対する異議等の申立てをせざるを得なくなった。地裁の書記官は違法に郵便の預納を求めたり、高裁の裁判官は原告の裁判を受ける権利を拒否し、高裁の書記官らは郵便を違法に使用するなどの不法行為を行った。原告の裁判を受ける権利を否定した裁判を最高裁によって確定され、裁判拒否から回復される機会を失った等と主張して損害賠償等を請求する事案である。審理中
39 国家賠償請求事件	0	最高裁24才	原告が提起した別件訴訟において、裁判官が不当な目的を持って判決をし、原告の財産権等を侵害したことは違法である等と主張して、損害賠償を請求する事案である。上告棄却確定
40 国家賠償請求事件	0	東京地裁237	別件訴訟において、原告が提出した書証を、提出の趣旨が不明であるため返還するとして、一方的に書記官が送り返し、原告の裁判を受ける権利を侵害する違法行為があったと主張して損害賠償を請求する事案である。審理中
41 国家賠償請求事件	0	最高裁24才	原告が提起した別件訴訟において、裁判官が、不当な目的を持って判決をし、原告の財産権等を侵害したとして損害賠償を請求する事案である。上告棄却確定
42 国家賠償請求事件	0	最高裁24才	原告が提起した別件訴訟において、裁判官が相手方の虚偽の陳述を違法に容認し、原告の名誉を毀損したと主張して慰謝料を請求する事案である。上告棄却確定
43 国家賠償請求事件	0	東京高裁23才	競売事件及び非訟事件における評価人の選任は、不動産鑑定士協会に所属している会員に限られており、原告は評価人選任から排除され損害を被っている等と主張して、損害賠償を求める事案である。控訴棄却確定
44 国家賠償請求事件	0	東京地裁24才	原告が提起した別件訴訟において、最高裁で敗訴終了後、書記官が原告に事情を説明することなく残郵便を送付され、罪人以下の扱いを受け、裁判を受ける権利を奪われそうになった。移送に反対したのに還方に移送された。等と主張して、損害賠償を請求する事案である。審理中
45 国家賠償請求事件	0	東京地裁237	原告が提起した別件訴訟において、被告が改ざんした診療記録を証拠として採用したことにより、原告が敗訴するという損害を被ったと主張して、損害賠償を請求する事案である。審理中
46 国家賠償請求事件	0	東京地裁23才	原告が提起した別件訴訟において、裁判官が故意に事実誤認をし、誤った判決をしたことで精神的苦痛を受けたと主張して、損害賠償を請求する事案である。控訴棄却確定
47 国家賠償請求事件	4	最高裁24才/24受	原告が提起した別件訴訟において、裁判官が、被告に都合の良い最高裁判例を引用し、不当な裁判が行われた等と主張して損害賠償を請求する事案である。審理中
48 国家賠償請求事件	0	最高裁24才/24受	原告が提起した別件訴訟において、訟廷管理官が警備権等を濫用し人権を侵害した。書記官が人種差別的な無礼な行為を行った等と主張して損害賠償等を請求する事案である。審理中
49 国家賠償請求事件	3	東京地裁237	原告が提起した別件訴訟において、裁判官が、被告の主張を不正に採用して調書を改ざんした等と主張して、損害賠償を請求する事案である。審理中
50 国家賠償請求事件	0	東京地裁24才	原告が提起した別件訴訟において、第一審の裁判官が突体審理を行っていれば、原告は敗訴することなく、控訴提起の必要もなかったものであり、公平・公正な裁判を受ける権利・利益を侵害する不法行為があったと主張して、損害賠償を請求する事案である。控訴棄却確定
51 国家賠償請求事件	0	さいたま地裁237	原告が提起した別件訴訟において、反訳書と一緒に提出した録音テープを消去し、裁判官が不動産鑑定士協会にテープの情報を流したと主張して、損害賠償を請求する事案である。審理中
52 国家賠償請求事件	0	さいたま地裁237	原告が提起した別件訴訟において、裁判官が、政治家の介入により証拠を処分するなどして不当な判決をした。裁判所と不動産鑑定士協会が鑑定人の指名・価格について談合し、競争を阻害している等と主張して、損害賠償を請求する事案である。審理中
53 国家賠償請求事件	288	東京高裁24才	原告らが提起した別件訴訟において、書記官が、証人尋問の要領調書を作成し逐語調書を作成しなかった。裁判官が、法令適用を誤り、不当不正な判決をした等と主張して、損害賠償等を請求する事案である。審理中
54 国家賠償請求事件	0	東京地裁237	原告が提起した別件訴訟において、裁判官が違法な理由に基づいて訴え却下の判決をしたと主張して、慰謝料を求める事案である。審理中
55 国家賠償請求事件	0	東京地裁237	原告が提起した別件訴訟において、裁判官が、期日変更申立て・開廷場所指定申立て等について判断をせず、または却下し、申立権・弁論権を不当に制限したうえで口頭弁論期日を実施し、取下強制により訴訟を終了させ、紛争解決請求権を侵害する等の不法行為を行った等と主張して、慰謝料を請求する事案である。審理中

名称等(訴訟名等)	金額	事件番号	概要(簡単な説明、今後の予定等)
56 国家賠償請求事件	0	福岡高裁244オ	原告が提起した別件訴訟において、裁判官が、不当な目的を持って判決をし、原告の財産権等を侵害したとして損害賠償を請求する事案である。審理中
57 国家賠償請求事件	0	福岡高裁234オ	原告が提起した別件訴訟について、裁判官が、不当な目的をもって判決をし、原告の財産権等を侵害したとして損害賠償を請求する事案である。審理中
58 国家賠償請求事件	6	神戸地裁姫路支部237	原告が提起した別件訴訟において、裁判官は、審理充実及び紛争を適正に解決する専門家として、職務上高度な注意義務を負っているにもかかわらず、主張整理、争点整理、重要資料の証拠提出を促すなどの釈明処分を行わず、これを懈怠した等と主張して、慰謝料を請求する事案である。審理中
59 国家賠償請求事件	0	さいたま地裁237	原告が提起した別件訴訟において、訴状却下されたが、却下予定であれば印紙を納付する意思はなく、書記官の怠慢により錯誤に陥り納付したものであり、錯誤による取消しを求める、訴状却下は、別件訴訟をなくすための故意があったものである等と主張して、損害賠償等を請求する事案である。審理中
60 国家賠償請求事件	10	東京地裁237	原告が提起した別件訴訟において、裁判官が、原告の主張・立証を阻み、裁判を受ける権利を侵害した、事実認定を誤り不公平な裁判をして原告の請求を棄却した等と主張して、損害賠償を請求する事案である。審理中
61 国家賠償請求事件	0	広島地裁237	原告が提起した別件訴訟において、裁判官及び書記官は、国が争点に対して矛盾した陳述を行ったことを調書に記載せず、訴訟上なかったことにしたために、原告の主張が無効になる結果が生じた等と主張して、損害賠償を請求する事案である。審理中
62 国家賠償請求事件	0	岐阜地裁237	原告が提起した別件訴訟において、訴状却下に対して即時抗告したところ、命令は取り消されたのに、期日指定をしない違法があると主張して、損害賠償を請求する事案である。審理中
63 国家賠償請求事件	20	東京地裁237	原告が提起した別件訴訟において、裁判官が、被告の言い分を重視しているために、法的に正当な理由で請求しても棄却されると主張して、損害賠償を請求する事案である。審理中
64 国家賠償請求事件	0	立川簡裁23ハ	原告が提起した別件訴訟において、裁判官は、被告が報告書に左頭骨折と記載すべきところを、擦傷と虚偽の記載をした等の誤った判断を行ったために、敗訴するという損害を被ったと主張して、損害賠償を請求する事案である。審理中
65 国家賠償請求事件	0	熊本簡裁23ハ	原告が提起した別件訴訟において、裁判官が、被告の移送申立てを正当化する目的で、懲戒請求事件処理報告書が存在しないにもかかわらず存在したように装い、虚偽の内容を記載した移送決定を行ったために、陪審員1級である原告は、移送先の裁判所で審理されるという負担を余儀なくされ、精神的、肉体的に損害を被ったと主張して、慰謝料を請求する事案である。審理中
66 国家賠償請求事件	0	神戸地裁尼崎支部237	原告が申し立てた仮処分において、裁判官は、債務者らの行為は信用毀損罪にあたるとの原告の主張を無視し、債務者らを擁護するべく司法判断を避け、申立てを却下するという不法行為を行ったと主張して、損害賠償を請求する事案である。審理中
67 国家賠償請求事件	0	横浜地裁237	原告が提起した別件訴訟において、訴訟救助を付与してから40日経過しても、第1回口頭弁論期日の通知を送らず、裁判を引き延ばした等と主張して、損害賠償を請求する事案である。請求棄却確定
68 国家賠償請求事件	0	東京簡裁23ハ	原告が提起した別件訴訟において、裁判官の署名・押印のない虚偽の訴訟救助却下決定を作成し、原告を欺いた等と主張して、損害賠償を請求する事案である。審理中
69 国家賠償請求事件	1	横浜地裁237	原告は裁判官忌避の申立てを行っておらず、手数料も納付していないにもかかわらず、書記官は、告知を利用して架空の忌避申立事件をでっち上げ、裁判官らはこれに対し決定を行った。忌避申立てを理由に何度も期日を変更し、判決官達しを行わず裁判を不正に妨害した。即時抗告に対し、高裁の裁判官らは、決定の無効を無視した判断を行った、手数料不納付の申立は不法法であるのに、決定を行った等と主張して、慰謝料を請求する事案である。審理中
70 国家賠償請求事件	84	東京地裁237	原告が提起した別件訴訟において、裁判官は、明白な事実誤認をして、請求を棄却し、再審事由があるにも関わらず、不当に棄却した等と主張して慰謝料等を請求する事案である。請求棄却確定
71 国家賠償請求事件	12	大阪地裁237	原告が提起した別件訴訟において、裁判官は、準備書面を陳述させない、書証の取調べを行わない等の不法行為を行った。裁判官に対する、裁判官忌避の申立てに対し、裁判官らは、合法的な訴訟指揮の範囲であると説示して、申立てを却下し職権濫用行為を行った等と主張して、損害賠償等を請求する事案である。審理中
72 国家賠償請求事件	5	千葉地裁237	原告が競売で取得した土地について、評価人は、重要な要素に目を向けず、減価割合の評価を誤り、適正さを欠く評価書を作成したと主張して、損害賠償を請求する事案である。審理中
73 国家賠償請求事件	15	神戸地裁237	原告が訴えられた別件訴訟は、事後的・法律的根拠及び訴え提起の相当性を欠くものであるのに、破産裁判所の裁判官が訴訟提起を許可したと主張して、損害賠償を請求する事案である。審理中
74 国家賠償請求事件	6	神戸地裁237	原告が提起した別件訴訟において、裁判官に、裁判所が指定した鑑定人の鑑定額で同意しないと、支払われる金額が0円になるかもしれないと脅かされ和解に応じたところ、鑑定の内容よりも遺物の白蟻・腐食被害が大きいことが判明したため、裁判所に現場を見てほしいと伝えたが、何の対応もしてくれない等と主張して、損害賠償を請求する事案である。請求棄却確定

名称等(訴訟名等)	金額	事件番号	概要(簡単な説明、今後の予定等)
75 国家賠償請求事件	0	大阪地裁237	裁判官は、裁判所の職員の犯罪行為を隠す目的で法廷を開かず、証拠を隠滅した等と主張して、損害賠償を請求する事案である。審理中
76 国家賠償請求事件	4	大阪地裁237	原告が提起した別件訴訟において、書記官は、裁判官の準備書面を陳述させない、書記官の取調べを行わない等の不法行為の経過を調書に記載する義務があるのに、これを怠ったと主張して、損害賠償を請求する事案である。審理中
77 国家賠償請求事件	2	仙台高裁244	原告が拘置所でのワープロの使用不許可が違法であるとして提起した国賠訴訟は正当に行われたものではなく、原告に対して回復しがい損害を与えたとして慰謝料を請求する事案である。審理中
78 国家賠償請求事件	0	東京地裁247	在監中の原告が提起した別件国賠訴訟において、被告らが原告に無断で原告の資力に関する資料を裁判所に提出し、裁判官が被告らと結託して訴訟救助申立てを却下し、損害を被ったと主張して、損害賠償を請求する事案である。審理中
79 国家賠償請求事件	0	東京地裁237	原告が提起した別件国賠訴訟において、裁判官が原告の設計図面の返還請求についての判断を脱離し、信義則に反する裁判を行ったと主張して、損害賠償を請求する事案である。請求棄却確定
80 国家賠償請求事件	27	東京地裁237	原告が提起した別件訴訟において、裁判官が高裁判決に虚偽の記載をし、証拠を隠蔽する等したと主張して、損害賠償を請求する事案である。審理中
81 国家賠償請求事件	0	東京簡裁24	原告が提起した別件国賠訴訟において、担当裁判官ではない第三者が判決を言い渡して裁判を妨害し、損害を被ったと主張して、損害賠償を請求する事案である。審理中
82 国家賠償請求事件	3	神戸地裁247	別件訴訟において、裁判官が時効期間について当事者の主張していない法的構成により請求を認容し、敗訴した等と主張して、損害賠償を請求する事案である。請求取下
83 国家賠償請求事件	1	広島高裁244	裁判官が虚偽の補正命令を行い、訴訟物の価額相当の損害を被ったとして、損害賠償を請求する事案である。審理中
84 国家賠償請求事件	1	釧路地裁北見支部247	原告が提起した支払督促申立事件において、書記官が、違法に支払督促申立却下処分をし、債権回収を妨害したと主張して、損害賠償等を請求する事案である。審理中
85 国家賠償請求事件	0	大阪簡裁24	原告らが提起した別件国賠訴訟において、担当裁判官が被告らと結託して訴訟救助申立てを却下したと主張して、損害賠償を請求する事案である。審理中
86 国家賠償請求事件	5	静岡地裁浜松支部247	原告が提起した別件訴訟において、裁判官が5年以上の間裁判を行わなかった等と主張して、損害賠償を求める事案である。請求棄却確定
87 国家賠償請求事件	72	大津地裁247	原告が提起した別件訴訟において、裁判官が、原被告を平等に扱わず、法の下での平等を逸脱して争いの事実を歪め、故意に憲法99条違反を犯し、原告に損害を与えたと主張して、損害賠償を請求する事案である。審理中
88 国家賠償請求事件	0	東京簡裁24少コ	原告が提起した別件訴訟において、生活保護の身分証明書を添えて訴訟救助の中立てを行ったにもかかわらず、裁判官と書記官が共謀して疎明資料の提出を命じたことは、虚偽の有印公文書作成の不法行為であると主張して、損害賠償を請求する事案である。請求棄却確定
89 国家賠償請求事件	0	東京簡裁24少コ	原告が提起した別件訴訟において、期日の呼出しをせず、担当裁判官とは別の者が判決の主文のみを読み上げ、事実及び理由を朗読しない等の違法な裁判を行ったと主張して、損害賠償を請求する事案である。請求棄却確定
90 国家賠償請求事件	0	宇都宮地裁247	裁判官が事案を検討審理せずに判決及び債権差押えを行ったため、損害を被った等と主張して、損害賠償を請求する事案である。審理中
91 国家賠償請求事件	0	宇都宮地裁24行	上告不受理決定及び上告棄却決定により、上告申立手数料は不要になったとして、不当利得返還等を求める事案である。審理中
92 国家賠償請求事件	2	東京地裁247	原告が提起した別件訴訟において、司法委員が被告を擁護する発言をするなどして中立に裁判が行わなかった等と主張して損害賠償を請求する事案である。審理中
93 国家賠償請求事件	0	大宮簡裁24少コ	原告が提起した別件訴訟において、補正命令を受けて補正したにも関わらず訴状却下命令が出されたのは不当であるとして、損害賠償を請求する事案である。審理中

名称等(訴訟名等)	金額	事件番号	概要(簡単な説明、今後の予定等)
94 国家賠償請求事件	0	広島地裁247	原告が提起した別件訴訟において、裁判官は、財産権の侵害行為を隠蔽するために不正に裁判を行い、組織的に事件名を改ざんして原告の権利を侵害した等と主張して、損害賠償を請求する事案である。審理中
95 国家賠償請求事件	0	東京地裁247	原告が提起した別件訴訟において、裁判官が原告の主張した訴訟物とは異なる訴訟物を訴訟の対象として原告の裁判を受ける権利を侵害した等と主張して、損害賠償を求める事案である。審理中
96 国家賠償請求事件	0	広島地裁247	原告が提起した別件訴訟において、控訴審の裁判官が行った上告状の補正命令や上告却下決定は詐欺である等と主張して、損害賠償を請求する事案である。審理中
97 国家賠償請求事件	3	東京地裁247	原告が控訴を提起した別件訴訟において、地裁に控訴提起手数料を郵送したにもかかわらず納付を求められ、その後に納付していたことが判明したが何らの原因の釈明がなされなかったと主張して、損害賠償を請求する事案である。審理中
98 国家賠償請求事件	0	広島地裁247	原告が提起した別件訴訟において、担当裁判官が恣意的裁判を行い、裁判官主観により書記官が調書の不実記載をした、裁判所職員が職権を濫用して上告提起通知書等を使用して原告を威圧した、高裁裁判官が職権を濫用して控訴審判決書を濫用し、原審判決を変更した、組織ぐるみの不正裁判を隠蔽するため上告受理の妨害をした、などと主張して、損害賠償を請求する事案である。審理中
99 国家賠償請求事件	2	京都地裁247	裁判官が裁判所職員の犯罪行為を隠す目的で法廷を開かず、証拠を隠滅し、手数料を返付しない等と主張して、損害賠償を請求する事案である。審理中
100 国家賠償請求事件	0	広島地裁247	原告が提起した別件訴訟において、相手方が写しを原本として証拠を提出するのを認め原本に基づく証拠調べを行わなかったのは職権濫用である等と主張して、損害賠償を請求する事案である。訴え取下げ
101 国家賠償請求事件	3	岸和田簡裁247	原告の所有地に執行官が何の説明もなく不法に侵入し、威圧的な態度やきつい言動により不安と精神的苦痛を与えた等と主張して、損害賠償を請求する事案である。審理中
102 国家賠償請求事件	2	釧路地裁北見支部247	原告が競り売りによりホイールローダー(ショベルカー)を購入したが、これは執行官の違法な差押えによるものであったために、「小型自動車標識交付証明書」の名義変更ができない等と主張して、損害賠償を請求する事案である。審理中
103 国家賠償請求事件	0	釧路地裁247	原告が提起した別件訴訟において、被告が警察官を指定代理人に指定したのは違法であるとの原告の指摘に対し、裁判官が違法ではないとして訴訟を続行したため損害を被った等と主張して、損害賠償を請求する事案である。審理中
104 国家賠償請求事件	0	東京地裁247	原告が提起した別件訴訟において、原告以外の人間の言い分により原告の訴状がすり替えられたなどと主張して、慰謝料を請求する事案である。審理中
105 国家賠償請求事件	0	神戸地裁247	原告が提起した別件訴訟は、二重起訴にあたるものではないが、裁判官は、補正命令をすることなく訴状を却下し、裁判を受ける権利を奪った等と主張して、損害賠償を請求する事案である。審理中
106 国家賠償請求事件	0	大阪地裁247	原告が提起した別件訴訟において、書記官が、納付した郵券を返還しない等と主張して、損害賠償を請求する事案である。審理中
小計		1,320	
刑事事件に起因するもの			
1 損害賠償請求事件	12	最高裁(平24(刑)平23(受))	違法な捜索差押許可状発付 第一審/国に対する請求棄却/原告ら控訴/控訴審/控訴棄却/原告ら上告・上告受理申立て
2 損害賠償請求事件	3	最高裁(平22(刑)平22(受))	違法な逮捕状及び勾留状発付 第一審/裁判官に対する請求棄却/原告1名控訴/控訴審/控訴棄却/控訴人上告受理申立て
3 損害賠償請求事件	10	最高裁(平22(刑)平22(受))	違法な付審判決定 第一審/請求棄却/原告控訴/控訴審/控訴棄却/控訴人上告・上告受理申立て
4 損害賠償請求事件	57	東京地裁(平21(刑)平21(受))	違法な有罪判決(控訴審で破棄・無罪確定)
5 損害賠償請求事件	9	東京地裁(平21(刑)平21(受))	違法な勾留
6 損害賠償請求事件	4	東京地裁(平22(刑)平22(受))	違法な勾留及び捜索差押許可状発付
7 損害賠償請求事件	9	東京地裁(平22(刑)平22(受))	違法な捜索差押許可状発付
8 損害賠償請求事件	9	さいたま地裁(平22(刑)平22(受))	違法な逮捕状、捜索差押許可状、検証許可状の各発付、勾留
9 損害賠償請求事件	3	大津地裁(平22(刑)平22(受))	違法な逮捕状及び勾留状発付

名称等(訴訟名等)	金額	事件番号	概要(簡単な説明、今後の予定等)
10 損害賠償請求事件	3	東京地裁 (平22ワ●●●)	違法な搜索差押許可状発付
11 損害賠償請求事件	1	東京地裁 (平22ワ●●●)	違法な搜索差押許可状発付
12 損害賠償請求事件	7	東京地裁 (平22ワ●●●)	違法な搜索差押許可状発付
13 損害賠償請求事件	0	東京地裁立川支部 (平22ワ●●●)	違法な勾留及び勾留延長
14 損害賠償請求事件	5	東京地裁 (平21ワ●●●)	違法な勾留及び勾留更新
15 損害賠償請求事件	7	東京高裁 (平24ホ●●●)	違法な勾留 第一審●●●請求棄却/原告控訴
16 損害賠償請求事件	10	東京地裁 (平23ワ●●●)	保管を委託した警視庁が押収物を紛失
17 損害賠償請求事件	0	福島地裁いわき支部 (平23ワ●●●)	違法な勾留、不当な勾留場所の移送
18 損害賠償請求事件	1	鹿児島地裁 (平23ワ●●●)	違法な逮捕状発付
19 損害賠償請求事件	82	横浜地裁 (平23ワ●●●)	不法な判決 第一審●●●請求棄却
20 損害賠償請求事件	0	東京地裁 (平23ワ●●●)	不法な再審請求棄却決定
21 損害賠償請求事件	75	東京地裁 (平23ワ●●●)	違法な搜索差押許可状発付
22 損害賠償請求事件	2	鹿児島地裁 (平23ワ●●●)	不当な勾留
23 損害賠償請求事件	0	東京地裁 (平23ワ●●●)	違法な裁判
24 損害賠償請求事件	1	大阪地裁 (平23ワ●●●)	違法な保釈条件
25 損害賠償請求事件	8	神戸地裁 (平23ワ●●●)	違法な判決
26 損害賠償請求事件	5	札幌地裁 (平24ワ●●●)	違法な判決
27 損害賠償請求事件	50	東京地裁 (平24ワ●●●)	違法な裁判
28 損害賠償請求事件	1	東京地裁 (平24ワ●●●)	違法な最高裁判決の補足意見
29 損害賠償請求事件	1	大阪地裁 (平24ワ●●●)	違法な判決
30 損害賠償請求事件	0	横浜地裁 (平24ワ●●●)	再審請求事件の違法な回付
31 損害賠償請求事件	5	大阪地裁 (平24ワ●●●)	違法な訴訟指揮及び判決
小計	380		
行政事件に起因するもの			
1 国家公務員の加害行為を原因とした損害賠償請求	5	東京地方裁判所 平成23年(ワ)第●●●号	原告が提起した著作権関係訴訟の控訴審手続において、審理の過程に裁判長の不法行為があったと主張する原告が、損害賠償を請求
2 慰謝料請求事件	0	東京地方裁判所 平成23年(ワ)第●●●号	原告の特許を取り消されたことを理由として、国を被告に提起した損害賠償請求訴訟(東京地裁平成23年(ワ)第●●●号)において、裁判所が請求を棄却したのは裁判官の重大な過失であると主張する原告が、被った損害に対する慰謝料を請求 ●●●請求棄却判決確定
3 慰謝料再審請求事件	0	東京地方裁判所 平成23年(力)第50号	東京地裁平成23年(ワ)第5629号慰謝料請求事件(平成23年7月11日確定)についての再審請求 平成24年3月27日決定(請求却下) 同年6月2日抗告審請求却下決定確定
4 国家賠償請求事件	2	和歌山地方裁判所 平成23年(ワ)第●●●号	原告が提起した損害賠償請求事件(和歌山地裁平成22年(ワ)第●●●号)について、裁判官の訴訟指揮が被告に偏っていると主張する原告が、被った精神的苦痛に対する損害賠償を請求 ●●●判決(請求棄却) ●●●控訴審受理
5 国家賠償請求控訴事件	0	東京高等裁判所 平成24年(ホ)第●●●号	少額訴訟手続における裁判官の訴訟指揮は、少額訴訟の原則である「一期日審理」及び「証拠調べの制限」に反しており、その結果、公正かつ迅速な裁判を受けられなかったと主張する原告が、損害賠償を請求 ●●●判決(控訴棄却)
6 国家賠償請求控訴事件	0	名古屋高等裁判所 平成24年(ホ)第●●●号	名古屋高裁平成21年(行コ)第●●●号、同第●●●号事件で、請求を棄却された原告が、国民健康保険法54条2項について、法律上解釈の余地がなく、厚生労働省が通達で運用しているにすぎない解釈を裁判所が判決で追認したことは、裁判官が付与された権限の趣旨に明らかに背いてこれを行なったと主張する原告が、精神的苦痛による慰謝料を請求 ●●●判決(請求棄却) ●●●控訴審受理

名称等(訴訟名等)	金額	事件番号	概要(簡単な説明、今後の予定等)
慰謝料請求事件	0	東京地方裁判所 平成24年(ワ)第●●●号	原告の特許権を取り消されたことを理由として特許庁審判官及び国を被告として提起した損害賠償請求訴訟(東京地裁平成23年(ワ)第●●●号)において、裁判所が請求を棄却したのは、公正さを欠き、信義則に反すると主張する原告が、被った損害に対する慰謝料を請求 ●●●請求棄却判決確定
慰謝料請求事件	0	東京地方裁判所 平成24年(ワ)第●●●号	原告が提起した慰謝料請求事件(東京地裁平成23年(ワ)第●●●号)に裁判の脱漏があったと主張する原告が、被った損害に対する慰謝料を請求 ●●●請求棄却判決確定
慰謝料請求事件	0	東京地方裁判所 平成24年(ワ)第●●●号	原告が提起した慰謝料請求事件(東京地裁平成23年(ワ)第●●●号)に、裁判の脱漏があったと主張する原告が、被った損害に対する慰謝料を請求 ●●●請求棄却判決確定
慰謝料請求事件	0	東京地方裁判所 平成24年(ワ)第●●●号	原告が提起した慰謝料請求事件(東京地裁平成23年(ワ)第●●●号)に裁判の脱漏があったと主張する原告が、被った損害に対する慰謝料を請求 ●●●請求棄却判決確定
慰謝料請求事件	0	東京地方裁判所 平成24年(ワ)第5103号	原告が提起した慰謝料請求事件(東京地裁平成23年(ワ)第32822号)に裁判の脱漏があったと主張する原告が、被った損害に対する慰謝料を請求 平成24年5月31日請求棄却判決確定
国家賠償請求事件	100	甲府地方裁判所都留支部 平成24年(ワ)第●●●号	原告が提起した甲府地裁平成11年(ワ)第●●●号雇用関係存在確認等請求事件において、第一審判決に不法行為があり、原告の請求を認めなかった控訴審、上告審及び再審にも不法行為があったと主張する原告が、損害賠償を請求
小計	107		
家事事件に起因するもの			
損害賠償	10	東京地裁 平成21年(ワ)第●●●号	児童福祉法28条事件で、裁判所と児童相談所が共謀して親権行使を妨害し、親権を剥奪したと主張 (係属中)
損害賠償等	1	最高裁 平成24年(ワ)第●●●号 平成24年(受)第●●●号	遺言書が自筆証書遺言でないため無効であるにもかかわらず、裁判所が検認手続を行ったことにより、遺言無効確認訴訟を提起せざるを得なかったとして、弁護士費用と慰謝料を求める旨を主張 (●●●上告棄却、上告不受理決定)
慰謝料等	1	広島高裁 平成24年(内)第●●●号	遺産分割調停事件において、裁判官が正確な調停調書が作成されていることを確認する義務を怠ったために、別の訴訟等を提起せざるを得なかったとして、弁護士費用と慰謝料を求める旨を主張 (●●●控訴棄却)
損害賠償	44	大阪地裁堺支部 平成22年(ワ)第●●●号	成年後見事件において、裁判所が後見監督人に対し、報告を求めることもなく、放置したことにより、成年後見人が成年被後見人の財産を横領したとして、損害賠償を求める旨を主張 (係属中)
慰謝料	0	大阪高裁 平成23年(内)第●●●号	人事訴訟事件において、協議離婚に合意するとの和解をした原告が、当該人事訴訟事件の担当書記官が勝手に離婚届に署名、押印したとして、慰謝料を求める旨を主張 (係属中(控訴審))
損害賠償	0	名古屋地裁 平成23年(ワ)第●●●号	裁判所の後見人に対する監督が不十分であったことを理由として、成年被後見人の相続人である原告が慰謝料を求める旨を主張 (係属中)
損害賠償	0	広島高裁 平成24年(内)第●●●号	家事調停事件において、原告が家事調停委員の態度により精神的侵害を受けたとして慰謝料を求める旨を主張 (係属中(控訴審))
損害賠償	134	東京地裁 平成23年(ワ)第●●●号	内縁解消に伴う財産分与審判及び抗告審における決定で、特有財産についての証拠認定・事実認定に明白な誤りがあると主張 (係属中)
損害賠償	2	和歌山地裁 平成23年(ワ)第●●●号	離婚等請求事件において、財産分与の算出のための求釈明や調査嘱託の要求をするも無視されたとして、慰謝料を求める旨を主張 (係属中(控訴審))

名称等(訴訟名等)	金額	事件番号	概要(簡単な説明、今後の予定等)
10 損害賠償	23	東京地裁 平成23年(ワ)第●●●号	調停委員の発言及び離婚訴訟等における主張や証拠の一方的採用で、修復可能であった夫婦関係が修復不可能になったと主張 (係属中)
11 損害賠償	1	広島簡裁 平成24年(ハ)第●●●号	裁判所が任意後見契約を有効させたため、原告が申立てをした後見開始申立事件が却下されたとして、精神的損害を受けたとして、慰謝料を求める旨主張 (係属中)
12 損害賠償、謝罪	0	松山地裁 平成24年(レ)第●●●号	調停委員ら及び書記官が、親族関係調整調停事件において原告の主張に耳を傾けず、また、同調停期日の経過表に誤りがあり、原告を無視扱いにし、調停を不成立とされたことにより精神的損害を受けたとして、損害の賠償等を求める旨主張 (係属中(控訴審))
小計	216		
会計事務に起因するもの			
1 損害賠償請求事件	57	静岡地裁 平成22年(ワ)第●●●号	庁舎工事の請負業者が下請業者に代金を支払わなかったため、下請業者が国と元請業者に対し代金の支払いを求めた(H22.2.18 提訴 係属中)
2 損害賠償等請求事件	25	静岡地裁 平成22年(ワ)第●●●号	庁舎改修工事の解体撤去作業中により生じた段差に気付かず落下して足を骨折するなどの負傷を負った裁判所職員が、公務災害認定が遅れたことによる精神的慰謝料等の支払いを求めた(H22.10.8提訴 係属中)
小計	82		
合計	2,105		

(注1)名称等欄は、事件の通称名を記載

(注2)金額欄は、平成23年度末時点において考えられる金額(金額が不明な場合は「-」)

(注3)百万円未満の場合には「0」とする。

(注4)事件番号毎に記入

(注5)訴訟額が10億円以上の訴訟については、「国の貸借対照表」において事件名を掲載する。

(注6)係争中の訴訟等で損害賠償額が10億円を超える場合は個別の件名を記載する。

(注7)その他の主要な偶発債務に関しても記載する。